

千代記句集

特別

~ 5

5799

5(2)



15 坊
5999
5(2)



東ニシマ

送行

送行
送行
送行

子成
子成
子成

既自
雪江

子

清之袖之編子本珠之骨為骨者子
初子聖之必聖之人也聖人之也然子
代及少之清法骨暢者少之能發枕之
新流古之氣補氣之通也髮之髮自
彌去固而為高之通也於九月抱素廉於
此澤抑鋒和也影者深安也此其情也矣
每句一旬知與不知以吾子曰某所有

吾人勉也切情也實焉其謂之死不
於而道融而傳也其也子而思者唱也
其也矣回不為名者也思也而之也者將
獨利定之而清之危視曰家得之造化者
師之造化乎何等之為是以也公之本若
久矣白法而然之也其也地埋也應博曰
系于其躬自授之也其也則民而語

あつたをききて難むたのうらみかゝるは然の風を
あつたにこしやうと名も難むのうらみかゝるは可なり
きりていふもあつたに人を教ふはさうさう
天のまはりの布の雲をうらみかゝるは衆のいふ
人かたきやうと名も難むのうらみかゝるは
あつたにこしやうと名も難むのうらみかゝるは
中かたきやうと名も難むのうらみかゝるは
あつたにこしやうと名も難むのうらみかゝるは
あつたにこしやうと名も難むのうらみかゝるは

享保十三年夏六月 名も難むのうらみかゝるは

あつたにこしやうと名も難むのうらみかゝるは

享保十三年夏六月

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

し 終りの 終り

對か向ふ女

あま

ふの名はあまのついでに

とゆふり教もあまのついで

くさひをいへば信の船は起るは

川の塵とあまのついで

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

お代女の汗あ〜

子代に白葉接ぎ

福のやまのふもとに
とてのふもとに
初めはさきふもとに
ねむるやまのふもとに
福のやまのふもとに
路のふもとに

心もあはれ
唯まこと
る物もい
皆ゆゑ
とれ
は
強
こ
田

あ
と
美
と
り
こ
海
美
と
り
こ
海
美
と
り
こ
海

三春の花やよみたのちうけ
物いりり田んぼの人びら
わいのちをさきしきき
まよよとつねにわが
いふことゆのきく
稲まあの旅をむかや水の
たのみのあまの
まののまの
桔梗のふさふさ
波のあふふに

うらやまの
新なやな
木
新水
まの
花
あ
夕
夕

1895 - 1896

Handwritten notes in cursive script.

Handwritten text in cursive script, top line.

Handwritten text in cursive script, second line.

Handwritten text in cursive script, third line.

Handwritten text in cursive script, fourth line.

Handwritten text in cursive script, fifth line.

Handwritten text in cursive script, sixth line.

Handwritten text in cursive script, seventh line.

海をこぎし 孫の青柳 園

何女ぬら 髪をちりし 園

上巻 海をこぎし

波もかたきと せき

伊勢のきりぎりす 夕のきりぎりす けりぎりす

涼 心おちる 心の秋

かきまはる 月夜 月夜 月夜

師 心 けりぎりす

し



し

イツ
ふ
田
の
か
ら
し
て
海
源
源

し



康

